

経済マンスリー [アジア]

資源価格下落と新興国需要の低迷が輸出を下押し

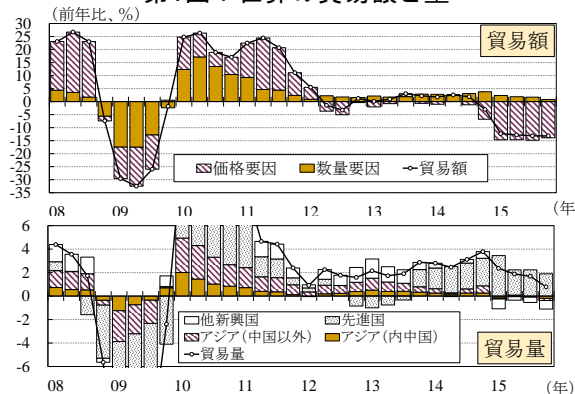
アジアの輸出は不振が続いている。資源依存度が高いインドネシアでは、昨年後半からの一段の資源価格下落を背景に、輸出が前年比▲14.3%（1-2月）と大幅に減少したほか、マレーシアでも同▲19.9%（1月）と、昨年12月から減少幅が拡大した。また、資源輸出依存度が低いNIEsでも前年割れが続いている。

輸出の不振に喘いでいるのはアジアだけではない。世界の貿易額は2015年以降、前年比二桁減が続いている。世界の貿易額を価格要因と数量要因に分けると、2014年後半以降の貿易額の落ち込みは、価格要因（＝資源価格の下落）の影響が大きいことが確認出来る（第1図）。一方、貿易量は新興国の減少により伸び率こそ鈍化しているが、先進国が下支えとなり底割れは回避している。輸出額減少をもたらしている資源価格の下落は、過剰投資／過剰生産調整の真っ只中にある中国を中心とした新興国の需要減が主因と考えられるが、価格下落に伴う資源関連投資の落ち込みや資源国景気の低迷と相俟って、世界的な財需要の低迷をもたらしていると考えられる。

アジア（除く中国）の輸出不振の主因は資源価格下落という点で例外ではないが、投資減速や生産調整に伴う中国の需要減少の影響も、輸出シェアの大きさを考えると看過できない。中国向け輸出を品目別にみると、NIEs、ASEAN共に素材の落ち込みが大きい（第2図）。また、韓国では北米に次ぐ自動車輸出先である中東向けの落ち込みが、輸出全体を大きく押し下げており（1-2月輸出への寄与度：前年比▲3.7%pt）、資源国景気の低迷も輸出の重石となっている。

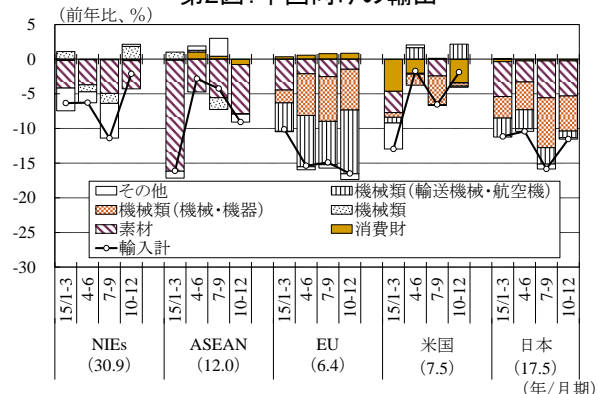
先行きを展望すると、数量面では中国の需要減を、内需主導で景気拡大が続く先進国の需要が下支えする構図が続く見込みである。一方、価格要因の先行きの鍵を握る原油価格は、主要4カ国の増産凍結合意を契機に、2月半ば以降持ち直しつつある。当面は後者の影響が大きく、輸出額は減少に徐々に歯止めがかかることが期待される。

第1図：世界の貿易額と量



(注) 輸入ベース。貿易量の地域内訳は、2005年の輸入額を用いて当面推計。
 (資料) IMF、オランダ経済政策分析局、中国国家統計局統計より
 三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図：中国向けの輸出



(注) 中国の輸入統計より作成。『素材』は、鉱物、化学品、プラスチック・天然ゴム、金属。国地域名(下)は各国地域の輸出の中国向け割合(%)。
 (資料) 中国海関総署、IMF、各国統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo_takeshima@mufg.jp
福地 亜希 aki_fukuchi@mufg.jp
土屋 祐真 yuuma_tsuchiya@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。